吉野瀬川ダムの役割

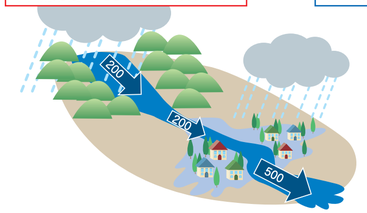
洪水調節

平成10年9月（越前市家久町付近）▶

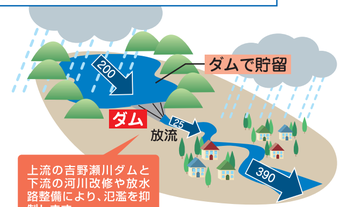


吉野瀬川流域では、台風や豪雨などにより、たびたび家屋や農地が洪水被害を受けてきました。このため、上流のダム建設と下流の河川改修による治水計画により、対策が実施されています。
雨がまとまって降った時には、たくさんの水が川に流れ込み、洪水が起きやすくなります。一旦ダムに水を貯めて川に流れる水の量を減らすことで、洪水被害を軽減します。

ダムがない場合
（下流市街地に500m³/秒が流下）

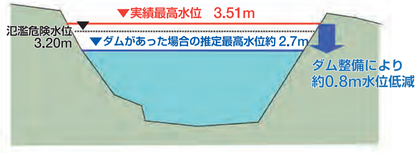


ダムがある場合
（下流市街地の流量を390m³/秒まで減少させる）



上流の吉野瀬川ダムと下流の河川改修や放水路整備により、氾濫を抑制します。

○令和６年６月大雨時の水位（上太田地点）



○浸水状況



▲吉野瀬川の水位状況
（芝原井堰）
ダムから約3km下流



▲浸水状況
（越前市上太田町付近）
ダムから約5km下流

河川環境の維持

吉野瀬川は、過去にたびたび渇水被害が発生しました。
このような状況を改善するために、下流の既得用水の確保や河川環境の保全に必要な水量を確保します。





▲平成6年8月（越前市広瀬町付近）

ダム周辺マップ



❶勝蓮花の滝広場



勝蓮花の滝展望台に隣接した駐車場併設の広場です。
高さ15mの滝を眺めることができます。

❷小野水辺広場



神明神社跡地周辺に整備した広場です。小野町集落跡地に広がる貯水池の水辺に親しむことができます。

❸府中馬借街道



府中（武生）と河野浦（越前海岸）とを結んだ街道で、明治時代まで重要な交通路でした。

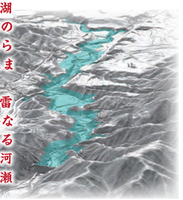
吉野瀬川ダム銘板について



ダム天端高欄に設置するダム銘板は、ダム湖立地地区にある武生第五中学校の生徒６名の皆さまにデザインを制作いただきました。
ダム湖が広がる越前市白山地区のシンボルであるコウノトリやスイカ、さぎ草のイラストがダム名の周りを飾り、背景の青色はコウノトリが飛ぶ大空や清らかな水を表現しています。

「吉野瀬龍神湖」名称の由来

地元の皆さまからダム湖名称を募集し、応募のあった名称案の中から選考委員会にて命名しました。
「龍神」は、ダム下流の雷神社近くにある龍神山など、地域になじみがあることから、吉野瀬川の河川名と合わせて、「吉野瀬龍神湖」としました。



福井県広野・桝谷・吉野瀬川ダム統合管理事務所
〒919-0131 福井県南条郡南越前町今庄87-4-4　TEL (0778)45-1122　FAX (0778)45-1126

吉野瀬川ダム監視所
〒915-0872 福井県越前市広瀬町186-44　TEL (0778)25-1565　FAX (0778)25-1566

令和8年6月作成

よしの　せ　がわ
吉野瀬川ダム
Yoshinosegawa Dam





福井県マスコットキャラクター
「はぴりゅう」

いいとこ、掘りだくさん

福　井　県

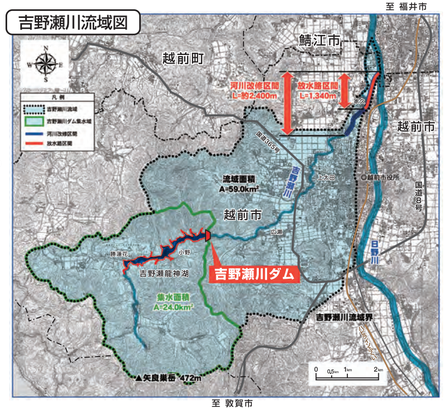
吉野瀬川の概要

吉野瀬川は、その源を越前市南西の矢良巣岳（標高 472m）に発して山間部を流下後、流路を北東に転じて越前市街地や鯖江市の一部を流下し、日野川に合流する九頭竜川水系の一級河川です。
（流路延長 18.25km、流域面積 59.0km²）

位置図



吉野瀬川流域図



ダム事業の経緯

吉野瀬川ダムは、九頭竜川水系吉野瀬川の越前市広瀬町に建設された治水ダムです。
昭和61年の事業着手以来、40年の歳月をかけ、令和8年に福井県が管理する9番目のダムとして完成しました。

年　月	主な経緯
昭和61年(1986)	実施計画調査事業採択
平成 3年(1991)	建設事業採択
平成14年(2002)	補償基準締結
平成19年(2007)	貯水池予定地の全37戸移転完了
平成30年(2018)8月	付替県道武生米ノ線全線供用開始
令和 3年(2021)8月	ダム本体工事着工
令和 5年(2023)4月	ダム本体コンクリート初打設
令和 7年(2025)7月	ダム本体コンクリート打設完了
令和 8年(2026)2月	試験湛水開始
令和 8年(2026)6月	ダム竣工

ダム建設工事の流れ

❶ 転流（てんりゅう）
水の流れている川の中ではダム建設ができないため、トンネル水路を造り川の流れを切り替えました。

トンネル水路出口(下流)



❷ 基礎掘削（きそくっさく）
ダム堤体を固くて丈夫な岩盤の上に乗せるため、土砂や脆い岩を掘削しました。(約335,000m³)

基礎掘削完了



❸ 堤体打設（ていたいだせつ）
水を貯めるためのダム堤体の材料となるコンクリートを現場内で製造し、タワークレーンで吊って運び、打設しました。

コンクリート打設



❹ 基礎処理（きそしょり）
貯めた水がダム周りの岩盤から漏れないよう、穴を掘ってセメントミルクを注入します。

基礎処理状況



❺ 試験湛水（しけんたんすい）
試験的に洪水時最高水位まで水を貯め、ダム堤体や貯水池の安全を確認しました。

試験湛水の様子



ダムおよび貯水池諸元

■ ダム

河　川　名	九頭竜川水系　吉野瀬川
位　置	福井県越前市広瀬町
ダ　ム　型　式	重力式コンクリートダム
堤　高	58.0m
堤　頂　長	190.0m
堤　体　積	137,170m³
ダム天端標高	EL. 121.0m
ダム基礎標高	EL.　63.0m

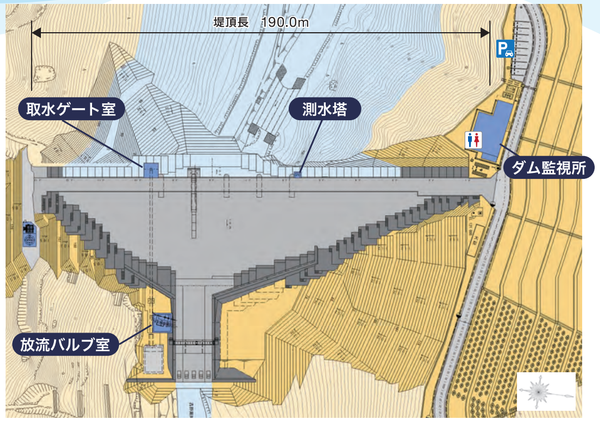
■ 貯水池

集　水　面　積	24.0km²
湛　水　面　積	0.51km²
総　貯　水　容　量	7,800,000m³
有　効　貯　水　容　量	6,800,000m³

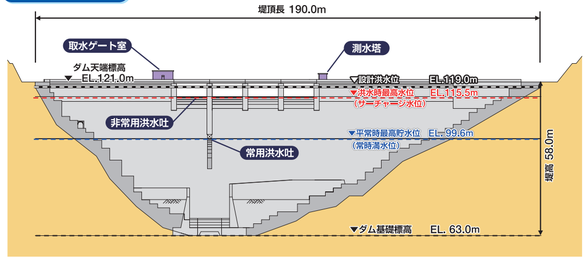
■ 放流設備

常　用　洪　水　吐	高 1.6m× 幅 1.6m×1 門 （オリフィス自然調節）
非　常　用　洪　水　吐	高 3.5m× 幅 11.4m×4 門 （クレスト自由越流）
放　流　管	口径φ1000mm×1 条

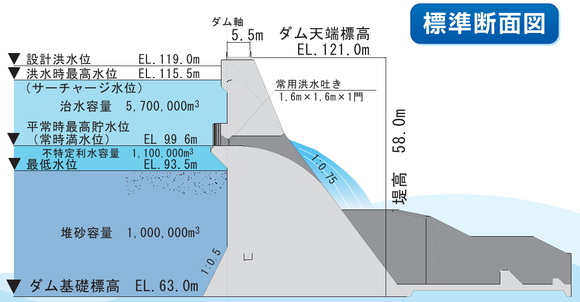
ダム平面図



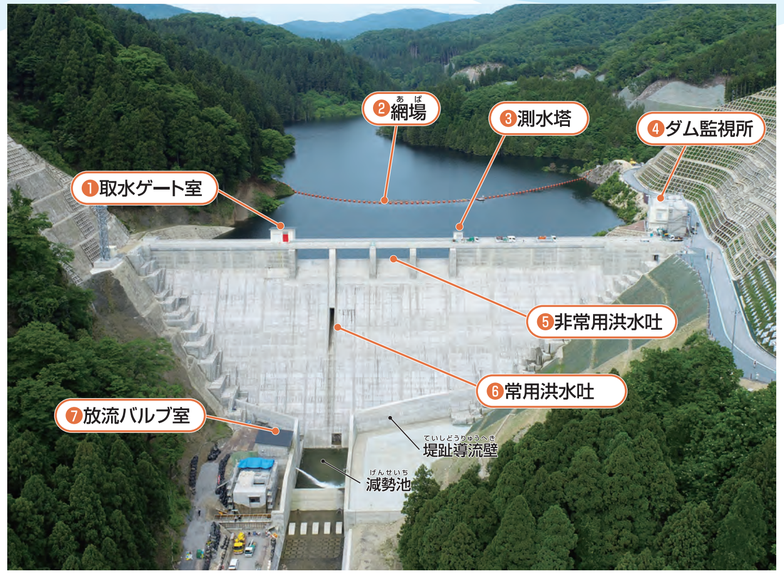
下流面図



標準断面図



施設概要



❶取水ゲート室



平常時、下流河川へ放流する水を取る設備です。ダムの水位に合わせて取水口の高さを操作します。

❷網場（あば）



流木やゴミが取水ゲートや洪水吐へ流入するのを防ぐ設備です。

❸測水塔



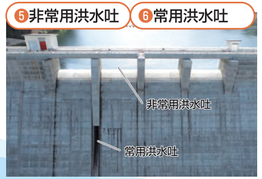
貯水池の水位を常時観測しています。

❹ダム監視所



ダム監視や操作のための設備が設置されています。
屋上からは、ダムを見学することができます。

❺非常用洪水吐 ❻常用洪水吐



洪水時、常用洪水吐で下流へ流す水を調節します。洪水時最高水位を上回る貯水位となった場合は、非常用洪水吐から放流します。

❼放流バルブ室



取水ゲートで取った水は、ここで水量を調節して下流へ放流します。